

神奈川県立鎌倉養護学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

| | | | |
|-----------|--|-----------|--|
| 審議会等名称 | 令和3年度 神奈川県立鎌倉養護学校第1回運営協議会 | | |
| 開催日時 | 令和3年 6月17日(木) 午前9時30分～午前11時00分 | | |
| 開催場所 | 会議室 | | |
| 出席者 | 委員：7名 事務局：6名 | | |
| 次回開催予定日 | 令和3年 10月28日(木) 午前9時30分～午前11時00分 | | |
| 問い合わせ先 | 神奈川県立鎌倉養護学校 副校長 佐藤 浩栄 電話番号 0467-45-1951 ファックス番号 0467-43-4808 | | |
| 下欄に掲載するもの | 議事録 | 議事概要とした理由 | |
| 審議(会議)経過 | <p>1 学校長挨拶</p> <p>2 自己紹介</p> <p>3 令和3年度の学校運営協議会について(副校長)</p> <p>①組織体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・切れ目ない支援部会については、児童生徒たちの卒業後の進路先となることの多い栄区と泉区の方に入っていただくことにした。 <p>②年間活動計画</p> <p>③学校運営協議会開催と記録のホームページ掲載</p> <ul style="list-style-type: none"> ・切れ目ない支援部会の会長及び福祉避難所部会の会長を昨年度に引き続きお願いし、承認された。 ・学校運営協議会開催についての案内と議事録をホームページに掲載する。 <p>【質疑応答】</p> <p>なし</p> <p>4 本校のオンライン授業の取り組みについて(教頭)</p> <p>小学部6年生、中学部1年生、中学部2年生、高等部肢体不自由教育部門1年生、分教室2年生のそれぞれの授業の様子を見ていただいた。</p> <p>5 令和3年度学校目標について(副校長)</p> <p>【質疑応答】</p> <p>(Aさん) 4の②について</p> <p>地域との資源の具体化には、一覧表ではなく図式化するとよい。わかりやすく関係性のわかるものになるとよい。</p> <p>(Bさん) 2の②について</p> <p>相談支援や専門職の保護者への発信は、懇談会で実感した。どんなことが相談できるのかがとてもわかりやすくなった。</p> <p>(Cさん) 4の②について</p> | | |

地域ではアセスメント会議の中で社会資源を見つける取り組みをしている。自治会館、公民館、消火器などがどこにあるか。資源のことを知ることは、お互いを知り合うことになり交流が深まることにつながる。資源の一覧表はできたものを発表し合える場、見せる相手がいるとよい。外側に向けた資料として、できるだけ多くの方に知ってもらうことが学校の資源となる。

(Dさん) 4の②について

平時のお付き合いが災害時にも重要となる。日頃のお付き合いがあれば、災害時に突然「助けてほしい」となったときにも対応できる。

(Eさん) 5の4年間の目標について

同僚性の良質化の文言に違和感があり、見直したほうがよい。

(Fさん) 2の②について

映像から先生方のオンライン授業での工夫が見て取れた。生徒の反応はどうか？

→(教諭①)

昨年度からオンライン授業を行っているが、その時間になると覚醒がよくなり、本人も直接友だちや先生の声が聞こえる環境が良かった。

→(教頭)

今年度高等部に入学してきた生徒が、**OriHime** を入院先で使用している。**OriHime** は本人が見たい方向(教室の中の)を見ることができる。また、友達や教員にアピールして、関係性を持つこともできる。入学してすぐに入院となってしまったが、今後退院して登校できたときに、スムーズに学校生活を送れることを期待している。

→(副校長)

授業において、教員は児童生徒の表情を読み取りながら行う。家庭とのオンライン授業では教員は毎回行くことができず、その時は保護者をお願いすることになる。保護者にとっては、それが負担にもなっていないか気になるところである。

→(Gさん)

親の思いとしては、オンライン授業は学校には行けないが家庭でできる良さがある。その一方で、準備することやその場を離れられなくなる大変さもある。大人の声ではなく、子どもの声に対する反応は違う。親が名前を呼ぶのと、友達に名前を呼ばれた時とは、明らかに反応に違いがある。難しいかもしれないが、学校とつなぐときにサポートしてくれる人がいてくれると嬉しい。親の付き添いが必ず必要であり、うれしい取り組みではあるが、親の存在なしでは成り立っていない。親の負担が少なくなるとよい。学校の先生ばかりに負担がいかないようになるとよい。

→(教頭)

訪問の担任をしていた時、友達が画面に映ったり、声が聞こえたりすると、家庭での反応もとてもよかった。母学級とのやりとりを多くし、外とのつながりを大切にしていた。

→(Hさん)

小学校の中でも双方向の受信がうまくいかない場合があり、オンラインの難しさを感じている。そのため、朝会は動画を先に撮り、各クラスの大型黒板で見

るようにした。本当は、こちらからも子どもの様子や反応を見ながら話ができるとよい。

6 人権が尊重された授業づくりのためのチェックリスト（副校長）

【質疑応答】

（Iさん）

チェックするというのはいいが、項目に足りないものがある。児童生徒の気持ちを尊重した取り組みができているのかどうかの取り組みが必要である。教育は上から目線になりがちである。

7 不祥事防止ゼロプログラム（副校長）

【質疑応答】

（Jさん）

キャッチフレーズの順番が違うのでは？「安全だから安心だから笑顔」なのでは。笑顔は大事だが、ひきつった笑顔ということもある。

8 全体を通して

【質疑応答】

（Kさん）

学校が取り組もうとしている資源の一覧表とはどのようなものか。

→（教諭②）

それぞれの学部が行っている地域との交流やかかわりを、昨年度と一昨年度、地域連携係を中心に洗い出し一覧表になっている。それぞれが独自でやりとりしながら取り組んでいるため、学校全体で情報共有されていない。担当者がかわると途切れてしまうことや、地域と交流をしたいがどうしたらつながれるのか先生たちにとってはわかりにくくなっている。今後もっとわかりやすくする必要がある。

（Lさん）

エコマップという、図式化の方法もある。

（Mさん）

以前から何度かお伝えしているが、学校案内に書いてある教育方針のⅢに違和感がある。「自らの障害を原点に」という文言は、医学モデルの考え方である。今は、障害は社会側にあるという考え方をしており、障害を自己責任だと生徒に押し付けているような表記である。障がい者ではなくて、ひとり人間であると捉え、教育の原点とは何かを考えてほしい。